

第401号

2022年
8月25日

月1回25日発行



発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
発行人 持田繁義/1部300円 年間3,000円
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
MMビルII 402
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
郵便振替 00150-7-355202
ホームページ http://genpatu.com/index.html
メール=genpatu-c@bizimo.jp

処理水放出の流れ

- ①日々増加する
アルプス処理水
(セシウム、ストロンチウムなどを除去)
- ②国と東電が限界とする
処理水137万トンを
アルプスで再浄化
(トリチウム以外の62核種
を除去)

処理水の
海洋放出

原子力規制委員会
の審査で「問題なし」
への影響については
の安全性や人や環境
の審査で「問題なし」

国は約束どうする!?

「関係者の理解なしには
いかなる処分もしない」

東京電力は2023年春から、福島第1原発でたまり続ける汚染処理水を海に放出する計画を進めている。放出に反対する漁業関係者の理解が得られない見通しがない中、放出に向けた工事だけは一方的に進んでいる。5、6号機前の海沿いの敷地では、放出前の処理水大量の海水を混ぜる貯水槽の整備が進む。設備の安全性や人や環境への影響については原子力規制委員会の審査で「問題なし」

のお墨付きを得た。海底トンネルの入り口となる立て坑は掘削を終えた。沖合1キロ地点の海底には、放出口設備を置く穴も掘削を終えた。東電は、これら工事を、規制委の認可も自治体の同意も必要がない「環境整備」と呼ぶ。昨年12月に開始し、7月までにはほぼ終えた。海底トンネル(長さ約1キロ)の掘削工事は着工前に、立地自治体の福島県、大熊町、双葉町の同意が必要である。東電はトンネル掘削が認められない場合、敷地や海底の穴は埋め戻すとしてきたが、内堀雅雄県知事、吉田淳大熊町長、伊沢史朗双葉町

- ③トリチウム以外の核種の濃度が国の基準以下を確認
トリチウム濃度確認
- ④貯水槽(幅18メートル、深さ7メートル)の処理水に大量の海水と混ぜトリチウム濃度が基準の40分の1(1キロ当たり1500Bq未満)を確認
- ⑤貯水槽から立て坑(掘削完了)に処理水を放出
- ⑥海底トンネル(約1キロ、地元の同意の後着工)を経て海底放出口(水深12メートル、掘削完了)
- ⑦30年ほどかけて放出

- 世界的共同広げ、核使用許さず廃絶へ(二面)
- 軍事費と原発 青天井 概算要求基準を閣議了解(三面)
- ザポロジエ原発に繰り返し砲撃(五面)

長は2日、県庁で小早川智明東電社長に本体工事開始に同意すると伝えた。しかし、国は福島県漁連に対して、「関係者の理解なしにいかなる処分(海洋処分)もしない」と文書で約束している。県漁連はじめ全漁連・坂本雅信会長は7月25日、「断固反対である」とはいささかもかわらない」との声明を発表している。一連の工事にしろ、今回の地元同意にしろ、この約束にまったく反するものであることは明らかである。国は約束を遵守する責任がある。国は、処理水の海洋放出の計画の実施を東電に迫る一方で、国はこの約束は生きているとす。とすれば、関係者の理解を得た上で工事をするのが誠意と

●ロシアのウクライナ侵攻で、プーチン大統領が核兵器使用の威嚇を行っている中で、広島、長崎へ米軍による原爆投下から77年を迎えた●それだけに、今年は核禁止条約第1回締約国会議、NPT再検討会議、広島、長崎での2022年世界大会、平和式典(二面参照)で、これまでにない核兵器廃絶への国際的議論が高まった。プーチンの核使用威嚇は核抑止論が簡単に威嚇、使用に転化しうることを示す一方、核兵器廃絶が喫緊の課題であることを人類が知る契機を広げた●このなかで、その愚かさを世界にさらしたのが岸田文雄首相の一連の会議での見識のない発言であった。核保有国と非保有国との「橋渡し役」となるとして締約国会議に参加しなかった。核兵器禁止運動に背を向けて「橋渡し」はできない。参加したNPT再検討会議では、NPT第6条にもとづく核保有国の核軍縮義務にも触れない●これで、唯一の戦争被爆国の首相の資格がないことを世界に示した。まして「広島出身」をいうのは恥の上塗りである。

から77年を迎えた●それだけに、今年は核禁止条約第1回締約国会議、NPT再検討会議、広島、長崎での2022年世界大会、平和式典(二面参照)で、これまでにない核兵器廃絶への国際的議論が高まった。プーチンの核使用威嚇は核抑止論が簡単に威嚇、使用に転化しうることを示す一方、核兵器廃絶が喫緊の課題であることを人類が知る契機を広げた●このなかで、その愚かさを世界にさらしたのが岸田文雄首相の一連の会議での見識のない発言であった。核保有国と非保有国との「橋渡し役」となるとして締約国会議に参加しなかった。核兵器禁止運動に背を向けて「橋渡し」はできない。参加したNPT再検討会議では、NPT第6条にもとづく核保有国の核軍縮義務にも触れない●これで、唯一の戦争被爆国の首相の資格がないことを世界に示した。まして「広島出身」をいうのは恥の上塗りである。